

—2015年4月1日～2025年12月31日の間に大腸憩室出血でご入院された方へ—
「大腸憩室出血の再出血に与える因子および黄連解毒湯による止血効果に関する検討」へのご協力のお願い

【研究機関名】 NHO 福山医療センター 消化器内科

【研究代表者】 消化器内科 医長 坂田雅浩

【共同研究者】	伏見 崇	所属	肝臓内科	職名	医長
	金吉 俊彦	所属	肝臓内科	職名	診療部長
	上田 祐也	所属	消化器内科	職名	医師
	藤田 明子	所属	消化器内科	職名	医師
	福井 洋介	所属	内科	職名	医師
	住井 遼平	所属	内科	職名	医師
	中西 彬	所属	内科	職名	医師
	原 友太	所属	内科	職名	医師
	野間 康宏	所属	消化器内科	職名	医長
	藤田 勲生	所属	消化器内科	職名	医長
	堀井 城一郎	所属	消化器内科	職名	医長
	豊川 達也	所属	消化器内科	職名	診療部長

1. 研究の目的

本邦における大腸憩室症は近年増加傾向にあります。これに伴って憩室から出血を来す大腸憩室出血も増加しています。大腸憩室症は高齢男性に多い病気ですが、アスピリン以外の非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）あるいはアスピリン服用が出血の危険性を高めると言われています。高齢化に伴って、NSAIDs やアスピリンを内服される方も増えてきますので、今後も大腸憩室出血は増加することが予想されます。大腸憩室出血は自然に止血される場合も多いですが、再出血を来し、再検査を行っても出血点が見つからず治療に難渋する事もあり、稀ではあるが死に至る疾患でもあります。そこで今回、私たちは当院における大腸憩室出血の再発に与える因子の検討を行い再発予防策を検討致します。さらに、止血剤としての効果が期待できる黄連解毒湯エキス顆粒（TJ-15）を使用された症例における有効性と安全性に関する検討を行います。

2. 研究の方法

1) 研究対象

2015年4月1日から2025年12月31日までの期間に、当院で大腸憩室出血と確定診断された患者さん150名を対象とします。

2) 研究期間

福山医療センター倫理審査委員会承認後 ～ 2026年12月31日

3) 研究方法

年齢、性別、BMI、憩室出血既往の有無、併存疾患の有無、NSAIDs 使用、出血点判明の有無、黄連解毒湯使用の有無、再出血の有無および再入院までの期間、血圧や心拍数などについて、カルテから調査させていただきます。

解析は当院消化器内科で行いますが、患者さんの個人情報には削除し、個人情報が漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

4) 情報の保護

調査情報は福山医療センター消化器内科で厳重に取り扱います。電子情報の場合は、ファイルにパスワードを設定し、研究者以外が閲覧できないように配慮し、その他の情報については施錠可能な保管庫に保存します。調査情報は研究終了後に消去及びシュレッダーで裁断する等適切に廃棄します。研究結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文等にて発表する予定ですが、その際にも匿名化したデータを使用するため、患者さんの個人が特定されることはありません。研究結果の開示については、ご希望される患者さん本人と本人の同意を条件にご家族へ開示します。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象にいたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

独立行政法人 国立病院機構 福山医療センター

消化器内科 坂田 雅浩

電話：084-922-0001（代表）（金曜日 午前9時～午後17時15分）